

「伊勢丸」に乗って夏休み伊勢湾発見ツアー — 伊勢湾フェリー株式会社 —

8 月 22 日、名古屋港から伊勢湾フェリー株式会社の伊勢丸に乗船し、伊勢湾を周遊する「伊勢湾発見ツアー」が開催された。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、自粛を余儀なくされたイベントだが、今年度は感染防止対策を徹底した上で第 15 回の開催となった。ツアー参加者は一般公募で当選した小中学生とその家族 182 人。名古屋港ガーデンふ頭から、約 3 時間の周遊に出かけた

❖船内体験

周遊中の船内では、名古屋港の紹介アナウンスが行われ、海上交通センターや、停泊中の貨物船・コンテナ船、各埠頭について説明があり、その都度、参加者の視線が建物・船・埠頭に集中した。

救命胴衣着用体験では、乗組員や海上保安庁の職員による海難時の救命具の重要性と着用手順の説明、膨張式救命胴衣を作動させる実演がなされ、子どもたちは真剣に聞き入っていた。その後、救命胴衣を着用し、うれしそうに保護者に写真を撮ってもらっている姿が見られた。

ロープワーク体験では、乗組員とスタッフが、もやい結びや巻き結びの縛り方を実演し、保護者も一緒に実践する姿が見られた。

海洋少年団による、手旗信号の披露では、子どもたちや保護者が見事な旗さばきを見つめた。その後、担当者から手旗信号の有用性や基本的な信号の形を教えるとともに、参加者のリクエストを手旗信号で実演する姿が見られた。

午後 2 時過ぎに伊勢丸は中部国際空港（セントレア）付近の海域まで到達し、折り返して名古屋港に向かった。

デッキでは海を背景に写真撮影を行ったり、空港での飛行機の離発着を眺めたり、洋上からの景色を満喫していると、協賛している海上保安庁の巡視船「みずほ」が並走し、保安ヘリが船上を旋回するサプライズが行われ、参加者からは歓声が上がり、海の安全を守る海上保安官に手を振り、楽しむ姿が見られた。

午後 4 時ごろには名古屋港に入港・着岸し、参加者は日ごろ体験できない船での思い出を持ち帰っていった。